

◎教育長(山本隆生君) スクールソーシャルワーカーは、学校だけでは対応が困難ないじめや不登校等の解決のために、その状況を把握し、学校、家庭、福祉や医療等の関係機関による支援体制をつくり、子供を取り巻く学校、家庭環境等を改善することなどの役割を担っております。これに対しまして、スクールカウンセラーは、子供や保護者に直接カウンセリングを行うことを主な役割としているところに、その違いがございます。

本県における導入の経緯と配置状況についてであります。いじめや不登校等の要因はさまざま、学校だけでは解決が困難な状況があり、学校、家庭、関係機関等が連携した取り組みが必要となってまいりました。そこで、平成19年度から九州各県に先駆けて導入し、現在、熊本市教育委員会とすべての教育事務所に配置しているところでございます。

その評価についてでございますが、スクールソーシャルワーカーは、不登校状態にある子供の保護者に対して、家庭の経済状態が厳しい場合には支援制度を紹介したり、病気により養育力が不足している場合には医療機関を受診できるようにしたりして、生活基盤の安定に努めております。また、虐待が懸念される事例等には、児童相談所に連絡するなど、福祉部局等と連携して対応しているところでございます。さらに、子供に対しては、適応指導教室につなぎ、不登校状態を改善するなど、確かな成果が上がっており、県教育委員と小中学校長会との意見交換会においても、その効果が大変話題となったところでもあります。

文部科学省による大幅な予算削減に対しましては、全国教育長会議でも強く見直しを申し入れたところでございます。

本県といたしましても、大きく事業見直しを迫られましたが、厳しい財政状況の中においても、可能な限りの財源確保を行い、その結果、若干の事業見直しにとどめ、次年度においても、引き続き全県下への配置を継続することといたしております。

これまでのスクールソーシャルワーカーの活動の中で構築された関係機関や地域とのネットワークを活用した取り組みを、今後ともしっかりと進めてまいりたいと考えております。

〔瀧上陽一君登壇〕